

営農 プラスメモ



1 肥料の固結防止に向けた保管上の注意

肥料袋(ポリ袋・フレキシブルコンテナ)に損傷が発生して雨水などが浸入すると、肥料が水分を吸収し、固結の原因となります。保管時のポイントをまとめましたので、いま一度確認しましょう。

保管時のポイント

- 肥料の保管は屋内が大原則です。直射日光にさらすと、ポリ袋・フレキシブルコンテナが劣化し、損傷の原因になることがあります。
- やむを得ず、屋外に保管する場合は、クロスシートなどの不透明なシートをかけて、紫外線による劣化・雨水の浸入を防ぎましょう。紫外線カットタイプのシートを箱状に加工した「ボックスシート」などの商品もあります。
- 固結の発生パターンとしては、突起物や汚れ・小石などで袋が破損し、水分が浸入することによるものが多くみられます。
- 屋内保管・屋外保管いずれの場合も地面に直接置かず、パレットなどを下に敷きましょう。その際、パレット上の突起物や汚れ、濡れ、小石がないことを確認するなど十分注意してください。
- フレキシブルコンテナは2段積み以下とし、ひな段積みにしましょう。多段積み・不安定な棒積みは、荷崩れの原因となります。また、過度の荷重により、肥料が固まる場合があります。

屋内

パレット

パレットなどを下に敷き、床に直接置かないでください。直射日光にさらさないよう、極力屋内で保管しましょう。

屋外

不透明なシート

シート

パレット

やむを得ず屋外で保管するときには、パレットなどを下に敷き、不透明なシートをかけ保管してください。

積み降ろし作業や、吊り上げでの移動は、肥料袋の底部を引きずらないように注意してください。

はい積みは2段以下とし、ひな段積みしてください。

荷重によって固まった肥料は、水分による固結と異なり、ほぐして使用することが可能です。

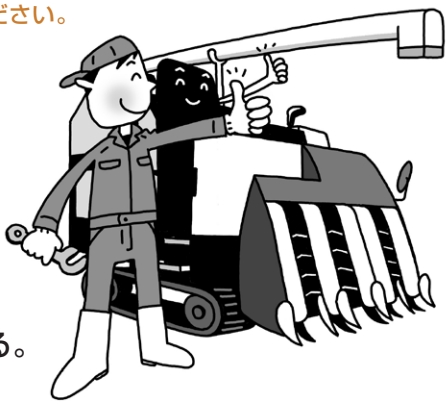
2 自脱コンバインの格納点検と清掃

農作業事故の中には、作業中の不注意によるものだけでなく、点検・清掃の不徹底によるものも数多くあります。農作業で活躍した農業機械は、営農終了後、必ず各部の点検と清掃を実施し、来年度の使用に備えましょう。

今回は自脱コンバインの格納点検・清掃のポイントをまとめました。なお、点検・清掃に基づき、調整・交換・修理などが必要となった場合は、取扱説明書に従って実施しましょう。※エンジン・潤滑・動力伝達・冷却・自動制御・油圧・電気系統については、各機械の取扱説明書に従って適正に点検・整備を実施してください。

以下の事項に留意して行ってください

- 1 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてからおこなう。
- 2 刈取部の下での作業は、必ず刈取部を固定する。
- 3 刈取刃、カッター刃等の点検・交換は、けがに充分注意する。
- 4 2人以上での作業は、合図を掛け合う。
- 5 取り外したカバーや取り外した箇所を元に戻す。
- 6 格納する時は、バッテリーを外し、メインキーを抜いて保管する。



点検箇所	点検内容
デバイダー	損傷、曲がり、ゆるみ
刈刃	破損、摩耗、受刃との隙間、刈刃駆動軸やロッドのガタ・摩耗
引き起こし装置	チェーンの張り、引き起こし爪の曲がり・損傷
搬送部	縦・横送りチェーン・ベルトの張り、取り付け部のゆるみ
脱穀部	フィードチェーンの張り、取り付け部のゆるみ、受け網の摩耗・損傷
	こぎ刃・ワラ切刃の曲がり・摩耗・損傷
排ワラ部	扱ぎ胴・受け網(上下)・揺動棚・チャフシーブ・ストローラック・処理胴・排塵ロールの摩耗・損傷
	排ワラチェーンの張り、取り付け部のゆるみ、排ワラカッターの摩耗、結束装置
ファン	送風・吸引ファンのガタ・摩耗
スクリーコンベアー	揚穀・1番・2番・排出コンベアーのガタ・摩耗
Vベルト	各コンベア駆動Vベルトの摩耗、テンションプーリーのガタ
クローラ	亀裂、張り、フレーム部のボルト・ナットのゆるみ

※点検に基づく調整・修理・交換等は取扱説明書に従ってください。

清掃箇所	引き起こしチェーンおよびチェーンケース
	扱ぎ胴、受け網、揺動棚、チャフシーブ、ストローラック、処理胴、排塵ロール
	揚穀、揚穀受継部、1番・2番・排出スクリーコンベアー
	送風・吸引ファン、グレンタンク、排ワラ部、クローラ部
	その他、ワラ・塵・泥が付着している箇所

※各箇所の脱着、カバーの取り外し等は取扱説明書に従ってください。